

声援を励みにたすきをつなぐ

第39回益城町一周駅伝大会開催

町陸上競技場で2月26日、第39回益城町一周駅伝大会が行われました。コースは町陸上競技場をスタート・ゴールとし、町内を一周する全8区間の19・1km。

中学の部6チーム、体協の部6チーム、一般の部5チームの計17チームが参加しました。スタートから2区間、木山体協チームを先頭にレースが展開し、3区で広安体協Aチームが首位を奪取。7年連続総合優勝の圧巻の走りを見せつけ独走。1時間3分43秒の記録で2着の御船中学校チームに1分24秒の差をつけ、そのままゴールテープを切りました。



始まりの合図、選手宣誓。森元聡人くん(益城中)



寒さを吹き飛ばし、力強くたすきを受け取る選手

当日は、強い風が吹くなか、選手たちは治道からの声援を励みに歯を食いしばって激走しました。
チームの中でも、「益城走ろう会」は平均年齢約60歳のランナーで構成された会。会員に話を聞くと「練習はおのおのでやることが多いが、大きな大会にはみんなで参加している。町一周駅伝は本番みたいなもの」と意気込みを話しました。



飯野体協7区・藤島和さん(娘)から8区・信さん(父)への親子たすきリレー



疲れた選手を癒す炊き出し(町婦人会)

レース後は町婦人会(富田セツコ会長)による豚汁とまぜご飯約600食が振る舞われ、完全燃焼した選手と大会関係者の疲れを癒してくれました。